

# 「人間の復興」まで闘う

公明が追悼式、山口代表ら献花

## 「震災を風化させない」

的復興を旗印に、災害公営住宅や堤防、高速道路などのインフラ整備に努め、進捗を重ねてきた」と強調。一方で福島県を中心に約4万8000人が避難生活を続けているとして、2021年3月末に迫る復興庁の設置期限を10年延長させ、残る復興の課題解決に総力を挙げると訴えた。

今後の党の取り組みについては、引き続き被災3県に国会議員の担当制を敷き、地方議員と連携して復興を進めると力説。「誰一人置き去りにすることなく、『人間の復興』を成し遂げるまで働く」と誓った。

井上本部長は「どんな災害でも強い意志があれば、復興できる」と語り、復興の枠組みや組織を定めた法律を整備する重要性を主張。その上で、「あつてはならないことは、被災者が忘れられていると思うこと。それは『人間の復興』にとつて最も大きな『敵』

だ」と述べ、被災者に寄り添い続ける決意を示した。「3・11」で2万人以上の犠牲者が出たことにも触

東日本大震災と原発事故から9年となった11日、公明党は衆院第2議員会館で党復興加速化本部主催の追悼式を執り行った。山口那津男代表、斉藤鉄夫幹事長、党復興加速化本部長の井上義久副代表ら多数の衆参国会議員が出席。地震が発生した午後2時46分に黙とうをささげ、献花した。席上、山口代表は「創造



追悼式で献花する山口代表ら＝11日 衆院第2議員会館

れ、「震災の経緯を後世に、日本全国に、世界に伝えていくことが、風化をさせないこと、そして犠牲者に応える道だ」と力を込めた。

● 関連記事2面